

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年10月8日（水）

2 確認箇所

- ・No. 3、4重油タンク跡地周辺（5・6号機南東側）（図1）
- ・6号機原子炉建屋（図1）

3 確認項目

- （1）サプレッションプール水サージタンク周辺における油含有土壌対策工事の状況
- （2）6号機新燃料の取出し状況

4 確認結果の概要

- （1）サプレッションプール水サージタンク周辺における油含有土壌対策工事の状況

平成23年3月に発生した東日本大震災の津波により、5・6号機のサプレッションプール水サージタンク（以下「SPT」という。）及びNo. 3、4重油タンク（令和3年3月撤去済）が損傷を受け、油が流出し、周辺土壌に浸透した。周辺土壌からの港湾への重油漏えいは確認されていないが、東京電力は、重油タンク周辺の油含有土壌対策工事※を計画している。

今回は、油含有土壌対策工事に干渉するSPTポンプ室の撤去状況及び当該エリアの状況を確認した。（前回確認：令和7年8月5日）

- ・SPTポンプ室の撤去が完了していた。（写真1）
- ・SPTポンプ室の撤去に伴い発生した瓦礫等の分別作業が実施されていた。瓦礫類は種類に応じて分類、仮置きされており、確認した範囲では飛散等の異常は認められなかった。（写真2）
- ・当該エリア東側では、油含有土壌対策工事に伴う試掘工として土壌の掘削作業が実施されていた。重機と作業員の接触を防止するため、作業員同士が声を掛け合いながら、安全に作業が進められていた。（写真3）
- ・港湾内にはオイルフェンスが設置されており、確認した範囲では港湾内への油の漏えい等は認められなかった。（写真4）

※重油が浸透しているエリアの周辺に鋼矢板を打設する。また、一部区域については、表土の油処理を行う。

- （2）6号機新燃料の取出し状況

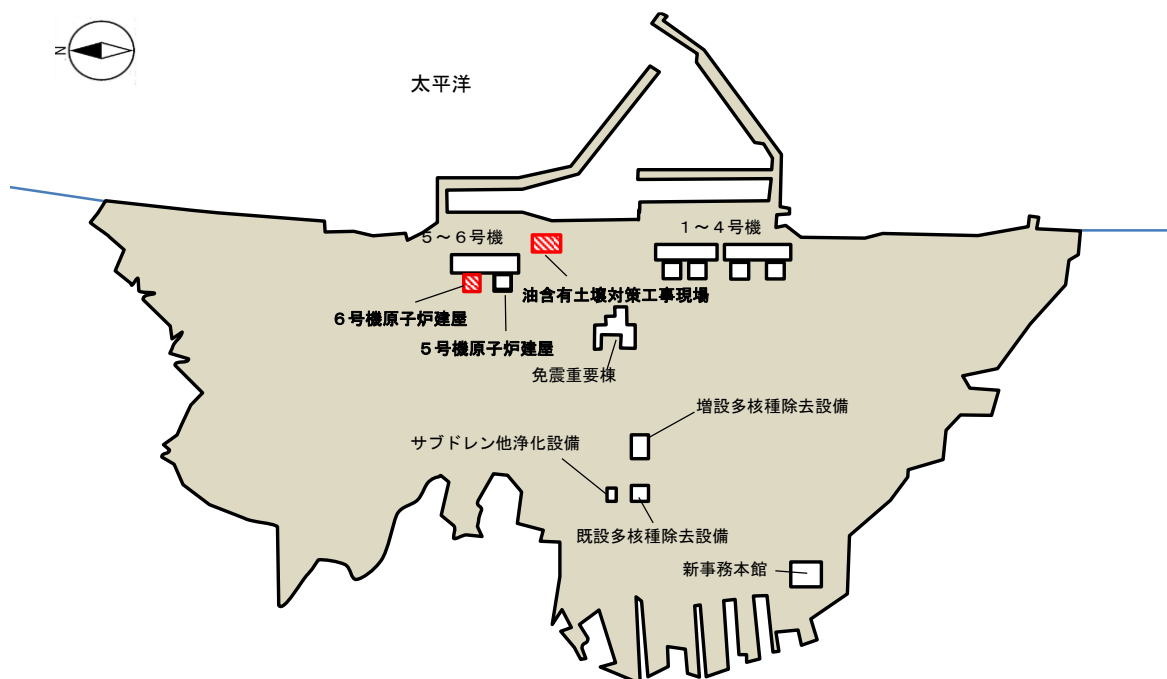
東京電力は、中長期ロードマップの目標である令和13年内の1～6号機燃料取り出し完了に向け、6号機の使用済燃料プールに保管されていた使用済燃料の取り出しを令和4年8月30日から開始し、今年4月16日に全1,456体の取り出しが完了した。

また、6号機に保管されている新燃料※（428体）についても順次取り出しを進める予定であり、このうち米国工場で製造された56体については、9月下旬から輸送容器（輸送用キャスク）への装填作業が開始されている。（前回確認：令和7年10月7日）

- ・現場確認時には、新燃料貯蔵庫の蓋が開放されており、内部に保管されている新燃料の取り出し作業が実施されていた。玉掛作業においては、声かけや手信号等により、玉掛者、合図者及びクレーン操作者が連携し、安全に作業が進められていた。（写真5）
- ・取り出された燃料は、表面線量率の測定及び表面汚染検査が行われた後、綿袋で覆われ、輸送容器へ装填された。（写真6）
- ・新燃料198体が保管されている使用済燃料プールのプール水はオーバーフロー水位※²付近にあり、水面に異物は確認されなかった。（写真7）

※1 新燃料：未使用の燃料。使用済燃料に比べて放射線量が極めて低く、人が接近して取り扱うことが可能。熱が発生しないことから、プール等での冷却も不要。

※2 オーバーフロー水位：使用済燃料プールにおいて、冷却系が適切に運転している状態を示す基準水位。この水位を超えてオーバーフローした水は、スキマサージタンクに流入し、熱交換器やろ過器を通過したのち、再び使用済燃料プールへ戻される。



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1) SPTポンプ室の外観
※令和7年8月5日撮影



(写真1-2) SPTポンプ室撤去後の状況
※令和7年10月8日撮影



(写真2-1)
瓦礫等の分別作業の状況



(写真2-2)
瓦礫等の仮置き状況



(写真3)
掘削作業の状況



オイルフェンス

(写真4)
港湾内の状況



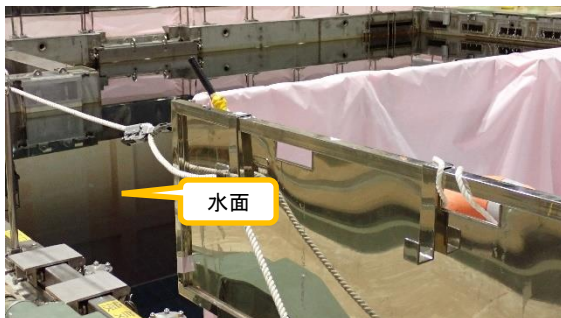
新燃料

(写真5)
新燃料取出し作業の状況



サーベイメータ

(写真6)
新燃料の表面線量率測定状況



水面

(写真7)
6号機使用済燃料プールの状況

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常値は確認されなかった。